

生産者 & JA

～皆様の声を次期共同購入機に  
反映させましょう！！～

# 次期共同購入機はコンバイン！！

大型(60PS)・中型(33PS)トラクターに続く！！ 4条刈 50PSクラスを検討

自脱型コンバインの必要機能についてのアンケートを実施します

～生産者の皆様へ～

平素はJAグループの事業にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。  
JAグループは生産者1万人の声を反映させた仕様・機能を備えた大型(60PS)  
トラクターに引続き中型トラクター(33PS)を選定し、2～3割の価格低減をはかること  
ができました。

次は、コンバイン(4条刈、50PSクラス)での共同購入を検討しています。

そこで、生産者の皆様が、実際にコンバインを使って農作業をするうえで必要な機能  
についてお聞かせください。

Point



アンケートはQRコードをスマホで読み取り、らくらく回答できます！

## 【アンケート】

### 自脱型コンバインの必要機能についてのアンケート

#### 生産者の皆様へ

平素はJAグループの事業にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。  
JAグループは生産者1万人の声を反映させた仕様・機能を備えた大型(60PS)トラクターに引続き中型(33PS)トラクターを選定し、2～3割の価格低減をはかることができました。

次は、コンバイン(4条刈、50PSクラス)での共同購入を検討しています。そこで、生産者の皆様が、実際にコンバインを使って農作業をするうえで必要な機能についてお聞かせください。

\* 必須

お客様の営業等についてご回答ください。

1. 都府県名\*

答えの選択

2. 農協名\*

回答を入力してください

3. 拠点・農機センター名\*

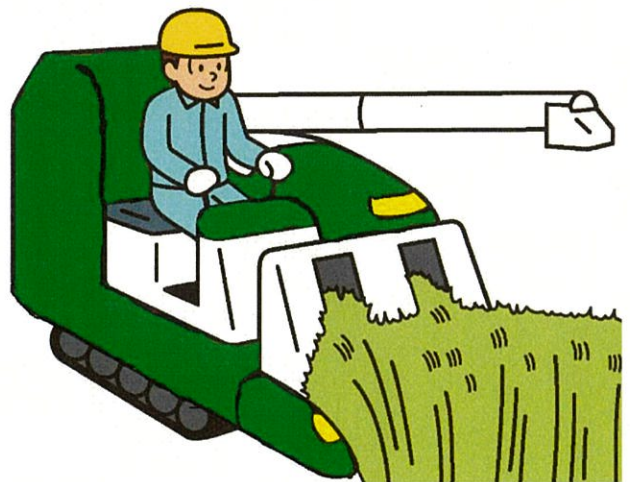
回答を入力してください

4. ご年齢\*

半角数字で記入してください

0は数字にする必要があります

【QRコード】



各機能の説明は  
チラシ裏面をご覧ください

# アンケート内容とコンバインの機能について

スマホでらくらく回答できちゃいます！！

## ～アンケート内容～

- Point 1. お客様の営農情報について
- Point 2. 現在所有するコンバインの刈取条数・馬力について
- Point 3. コンバインの必要な機能について
- Point 4. コンバインで重視する特徴について
- Point 5. コンバインを購入する理由・時期について



## ～コンバイン装備・機能説明～

### 1. 車体水平制御

・田面が左右に傾いても、機体を水平に保つ機能。湿田等で機体を上昇させて使用することも可能。

### 2. 幅広クローラ

・通常よりも広いクローラを装着していることにより、クローラの接地圧が小さくなり、機体の沈み込みが少なくなることで、湿田での作業性が良い。

### 3. 車速制御

・エンジンの負荷が大きくなったとき、自動的に車速を下げエンジン回転を定格に保つことでこぎ胴の回転を一定に保ち脱穀精度を落とさない機能。

### 4. エンジン回転制御

・作業負荷が大きくなっても、燃料噴射量を変えることでエンジン回転数を一定に保つことで安定した作業が行える機能。

### 5. 刈高さ制御

・田面をセンサーで感知することで、刈取部の高さを制御する機能。田面へのデバイダ突っ込みを防止できる。

### 6. 刈取オートクラッチ

・刈取部を上昇させると刈取部が自動停止する機能。旋回時の刈取クラッチ操作が不要になる。

### 7. 掻き込みペダル・スイッチ

・ペダルやスイッチ操作により刈取・搬送部を駆動することができ、四隅を刈るときなどの稈こぼれを防止する。

### 8. オーガ自動旋回

・設定した位置や収納位置まで、ボタン等の操作で自動旋回する機能。

### 9. 初シャッタ

・オーガ先端にシャッタを設置することで、排出後の初こぼれを軽減する。

### 10. 大型後方ミラー

・大型の後方ミラーを設置することで、後方の視認性が良い。

### 11. 大容量燃料タンク

・給油することなく概ね1日作業ができる程度の容量を備えた燃料タンク。作業途中で給油が必要なく、給油回数を削減できる。

### 12. 無線オーガリモコン

・機体から離れた場所から排出・オーガ旋回等の操作が可能のため、作業補助者も操作ができる。

### 13. 作業灯(こぎ口)

・脱穀部入口付近に作業灯があることで、こぎ深さを容易に確認できる。

### 14. 作業灯(オーガ)

・オーガ先端に作業灯があることで、排出作業の状況を容易に確認できる。

### 15. 刈取防塵カバー(前・後)

・刈取から脱穀部までの搬送部を概ね覆うことができる通常より大きいカバーで、オペレータへの防塵効果が高い。

### 16. 情報通信技術による機体・作業管理

・ICT技術を活用して、機械の稼働状況や故障を管理するシステム。